

2. あ ゆ み



沼津ソフトテニス協会の歩み

顧問 石川 雅之

沼津の軟式庭球協会は、昭和 22 年(1947 年)愛好者・団体を集め初代会長を森田 寧として発足しました。参加クラブチームは、東京電力、東芝機械、国産電機、電報電話局、藤倉電線、沼津市役所、不二屋食品、千本クラブであり、この他に高等学校の OB チームの香陵クラブ(沼津東高校)、八重クラブ(沼津工業高校)、沼商クラブ(沼津商業高校)等がありました。企業のクラブチームは会社のコートで練習していましたが、当時市営のテニスコートは無く、下一丁田にあった旧湯山邸跡の東京電力所有(2 面)の 1 面を市が借り受け、沼津市長杯等の試合は主にこのコートと沼津西高校のコートで開催していました。

戦後の沼津軟式庭球協会の発展は、原町を中心に熱心に普及活動がなされ特に、読売杯争奪大会を主催した小野亮一氏の功績に追うところが多いです。当時最も盛り上がった試合は、マッカーサー杯の全国都市対抗の予選でした。一般男女、高校男女、壮年の 5 チームによる県東部の対抗戦で、地区の応援団も加わり華やかに行われました。

本格的な市営コートは当時の会長であった菅野 真次氏等の努力により昭和 38 年(1963 年)高沢公園に 2 面造成されました。しかし、地元住民のための公園が一部のテニス愛好者のために敷地の多くをとられたことや、コート整備のローラーや球音等騒音の苦情も出て、その後、昭和 44 年(1969 年)移転した沼津東高校の敷地であった香陵コート(2 面)に落ち着きました。

その当時の協会の充実・発展には名実ともに千本クラブの目覚ましい活躍を欠かすことができません。千本クラブは戦後まもなく愛好者を集い市民クラブとして発足しました。昭和 35 年(1960 年)従来のメンバーに加え、沼津東高校、沼津工業高校、沼津商業高校の OB で組織されていたクラブを菅野 真次氏を中心に、日置 儀夫氏、渡辺 福芳氏、菅沼 孝行氏、長橋 正武氏等の世話で統合し、新生「千本クラブ」として発足しました。

千本クラブの原点は、昭和 26 年(1951 年)～昭和 40 年(1965 年)代、各高等学校の盛んな活動が基礎になっています。その後も各高校がライバル意識のもとに競い合い、幾多の全国レベルの優秀選手を輩出しました。なかでも沼津東高校、沼津商業高校、沼津工業高校、沼津市立高校の各学校はそれぞれ県大会個人戦で優勝を成し遂げ、国体出場を果たしています。

これらは、小栗 正一氏、長橋 正武氏、柴田 昌明氏、長倉 嘉重朗氏等に代表されるがごとく、各学校の OB、協会の多くの方々による学校の枠を超えた指導育成によるものでした。

女子高校は、昭和 30 年(1955 年)代まで沼津西高校が中心でありましたが、飯尾 正教諭の指導による沼津女子商業高校(現加藤学園)が全国レベルまで成長し、現在も伝統を引き継いでいます。

昭和 47 年には、当時の沼津市体育協会主催の婦人ソフトテニス教室を協会で受け持ち運営していましたが、その受講者のソフトテニスを続けたいという声に答え、県東部初の女子クラブとなる沼津香陵テニスクラブ（現、沼津グリーンテニスクラブ）が発足しました。

尚、ソフトテニス教室は、現在も協会で運営しており、対象を小学生の部と中学生以上の部に拡大し、ジュニアの育成に寄与しています。

昭和 50 年（1975 年）当時は実業団クラブが活発になり、合わせて同好会クラブも設立されて各大会が賑やかに開催されました。名前を挙げると、千本、明電舎、東電、白桃、富士通、沼津グリーン、乙女、国鉄、北陵、図書印刷、市役所、矢崎総業、矢崎電線、リコー、藤倉、フラワー、テニックス、朝日、エレガンス、香貫、さわやか等がありました。

その後、斉藤 秀・村中 優選手を中心とした明電舎の実業団チームが力をつけ、全日本実業団の静岡県代表の常連として活躍し、平成 2 年（1990 年）日本ソフトテニス連盟の優秀団体賞も受賞し、沼津協会男子の主力チームとなりました。

女子では一杉 常昭氏率いる富士通のチームが全日本実業団大会出場を果たしています。その後、沼津グリーンが充実した活動と共に国体選手の輩出など強力メンバーがそろい、平成 10 年（1998 年）に全国クラブ選手権で優勝するまでに成長し、庄司 順子氏、村中 裕紀子氏、鷺巣 鈴恵氏、岡 容子氏を中心に現在も目覚ましい活躍をしています。

沼津の協会活動はレベルの向上とともに充実し、沼津地域を超えてその枠を東部全域に広がっていきました。その一つに昭和 31 年（1956 年）沼津市長杯を東部選手権に格上げし、富士、富士宮、吉原、三島、熱海、伊東、南伊豆等からも広範囲の参加を得て開催しています。また、昭和 39 年（1964 年）小野 亮一氏の功績を偲び小野杯（団体戦）、昭和 48 年（1973 年）三島市との定期戦の開催、昭和 51 年（1976 年）沼津インドア選手権の創設がなされ、これらは長橋 正武氏、初又 祥生氏らの努力が大きいです。

三島市との定期戦は平成 6 年（1994 年）まで継続して、お互いの技術向上に大きな役目を果たしました。同じ内容の定期戦を三島と富士宮の間でも行っていたので、富士市も取り込んで四市が一堂に会しての対抗戦が平成 7 年（1995 年）から東部連盟が主催という形で行うことになりました。この大会は、平成 18 年（2006 年）までの 11 年間続けて行われましたが、その後さらに大きく成長していきました。

県体育協会から、長年行ってきた県民スポーツ祭を、今までの県下各市町の得点争いから、親睦を深めることを前面に出してのイベントにしたいという要請があり、これに応え、東部連盟で検討し、県東部地区全体、沼津、富士、富士宮、三島（裾野、長泉、清水町含）、東豆、伊豆の国、連合の 8 チームによる親睦大会「第 1 回スポーツフェスティバル東部地域大会」を平成 19 年（2007 年）に男女年齢別 9 組対抗という形式で沼津で行われました。今年で 10 回目を迎えるこの大会が、東部のまとまりに貢献している意義は大きく、さらに充実したものになっていくことを期待したいです。

高校・中学の活躍は、昭和の後半には他の地区に比べて伸び悩み気味でした。そのことを憂いていた平塚 捷七朗先生、岡部 景三先生、石川 雅之先生等が中心になって、中学 1 年から育て高校生につながることを狙いとした大会を昭和 61 年（1986 年）第 1 回沼津中学高校研修大会、昭和 62 年（1987 年）第 1 回橋杯争奪大会と創設して技術向上に力を注ぎまし

た。その結果、早い学年から基礎・基本を指導していくことの重要性が次第に深まってきました。

その後まもなく、県下の各ジュニアクラブの後を追うようにして、原ジュニア、千本テニックス、千本ジュニアの3つのジュニアクラブが設立され、念願の第1回沼津小学生選手権大会が平成18年（2008年）8月に、続けて第1回沼津小学生研修大会が平成24年（2012年）2月に開催され、近年では県下で活躍する選手の誕生を見るようになりました。

平成14年（2002年）3月31日待望の愛鷹運動公園テニスコート12面が開設し、今まで実施できなかった大きな大会や行事を開催できるようになり、県連盟主催の県中学選手権大会や東部中学対抗戦なども開催しています。

年々協会の活動も充実し、現在は年間30余りの行事を行っています。歴史ある大会（沼津選手権、スポーツ祭、沼津市長杯東部大会、小野杯クラブ対抗）に加えて、沼津ミックス大会、ジュニア審判講習会、競技者育成プログラムU-14ステップ1等、新たな試みが活発に行われています。

ただ残念なことは、時代の流れか最近は実業団クラブが少なくなり、それに付随して女子の同好会クラブの休部が目立つようになったことです。協会としても小中学生を軸にソフトテニスの楽しさを味わってもらい、家族で楽しめる雰囲気育てていきたいと思っています。